

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



# ぱらネット

第24号



平成二十四年度さいたま市社会参加推進センター事業

## 太鼓をたたいたよ たのしかったよ

さいたまダウン症連絡会

豊田 容子

予想外の大雪に見舞われた一月十四日成人式の日、くみんな

で楽しもう和太鼓の音と響きのイベントに参加させていただきしました。

太鼓集団「響」そして県立浦和商业高校の太鼓同好会「絆」による和太鼓の演奏は、とても力強く、身体中に響き渡るような迫力のある素晴らしいものでした。

演奏を楽しんだ後は、実際に本物の和太鼓を体験させていただくことができました。

「響」「絆」の皆さんが、とても丁寧に指導してくださり、言葉だけの説明ではわかり

▼大雪もなんのその！笑顔いっぱいの勢揃い



にくい子には、手を取って優しく教えていただくなど、とても温かな配慮を感じました。

参加した子どもたちも生き生きとした表情で楽しそうに取り組んでいました。手にママができるほど真剣に力強く太鼓を叩く子…、自分の叩く音をひとつずつ確かめるように聴きながら太鼓を叩く子…、手に握ったバチの感触を楽しむようにゆつくりと太鼓を叩く子…、本物の和太鼓に触れる機会はなかなかありませんので、貴重な体験ができたと思います。

## なんとかなるもんぞ ありのままに生きる

(社)埼玉県筋ジストロフィー協会  
さいたま市支部・支部長

猪瀬 剛

平成二四年度のさいたま市障害者社会参加推進事業・生活訓練として、去る九月二二日(土)浦和コミュニティセンター第14集会室にて、講演会が行われました。

今回の講演会の趣旨は、進行性筋ジストロフィーという難病を抱えている当事者から、障害があっても、仕事をしたり、結婚したり、介助を受けながら一人暮らしをしたり、地域の中で自分らしく、ありのままに生きている事を伝えたいということ。

第一部では(社)埼玉県筋ジストロフィー協会支部長の吉永貴子さん(肢体型筋ジストロフィー)をお招きして、『なんとかなるもんぞ』という題目で講演して頂

きました。

吉永さんは上尾市在住で、就職、趣味のスキューバダイビング、結婚について等、画像を使いながら、積極的に生きている姿が印象的でした。

会場には筋ジストロフィーの当事者を含め五十名程の方が見えました。

第二部として、猪瀬剛講演、テーマは「たった一度の人生を楽しむ」介助を受けながら一人暮らしをし、NPOライフアシ

スト「Familish」で理事をして

います。介助者との係わり、多くの仲間との出会いで支えられている現在の生活について「人生はたった一度、後悔したくない」という思いを伝えました。

最後に、本講演会の運営全てにわたり、ご支援いただきました。加盟団体の方、お手伝いいただいた「Familish」の皆さんに厚く感謝申し上げます。

### 発表者として

吉永 貴子

このような経験は初めてで時間も読めずに長くなってしまいました。貴重な経験が出来て感謝しています。障がいがあっても希望や夢は捨てずにいけば必ず何かが見えてくる。時間はかかっても叶えられるという事を伝える事が出来て良かったです。

私はまだ色々やりたい事もある。なのでこれからも自分がどうやれば実現できるのかを考えながら進めて行きたいと思えます。また障がい者がどんな社

会に出られる環境が少しでもゆつくりでも増えて行ってくれる事を願います。

社会全体が健常者も障がい者も同じ環境の中、あたりまえに生活が送れるようになって欲しいです。改めてそう思いました。ありがとうございます。

### これからは 条例を生かす活動を

障害者(児)の生活と権利を  
守るさいたま市民の会

平林 彰

今回は「ノーマライゼーション輝くまちに！」をテーマに、立教大学准教授の平野方紹先生に講演していただきました。

先生は、条例検討専門委員の一員として、国連障害者の権利条約の理念を生かしたさいたま市の条例にするために、いろいろ苦労した裏話も交えて分かりやすく話していただきました。そして、100人委員会、



当事者をはじめ、広く市民が条例づくりに参加したことは貴重な取り組みであったこと、その中で、参加した当事者や市民、担当した行政の職員などの意識がとて高まったことは重要なことだった。今後はこの条例を生かした施策を実現させる運動が大切、と結ばれました。

また、質問に答えて、市長が

誰になっても施策が変わらないようにするために条例をつくったと話されました。

参加者の総数が45名で、目標の75%に終わりましたが、一般市民の立場で参加された方が3名あり、この事業が、少しづつ一般市民の中に浸透しつつあることを感じさせる結果になりました。

## 市民会議・来年度もお待ちしています

さいたま市障害福祉課長 吉川 洋一

さいたま市では、昨年四月に全面施行となった「誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」に基づき、障害者に関する施策について、市民の皆様に見聞交換をしていただく、「誰もが共に暮らすための市民会議」を開催しています。

市民会議は、当事者、家族、福祉関係者、一般の市民の方々など、様々な方にご参加をいた



最後に、一般市民の方の感想を掲載します。

★介護ヘルパーの講義で習った「ノーマライゼーション」について少し違った方向からのお話が聞けてとても良かったです。知らない事が沢山あることを改めて知りました。もっと自分からも進んで学ばなくてはと実感しました。

た」と大変好評でした。

新しい試みにより、さらに充実した議論ができたということ、今年度の市民会議の一つの大きな成果だと感じています。

皆様からいただいたご意見は、取りまとめまして障害者政策委員会に報告するとともに、今後の障害者施策の形成の参考とさせていただきます。

来年度以降も、幅広い市民の方からご意見をいただける貴重な機会として、引き続き市民会議を開催してまいりますので、皆様ぜひご参加ください。

だいており、今年度は七月六日(金)に浦和コミュニティセンター、一〇月二七日(土)にプラザウエスト、一月一八日(金)に武蔵浦和コミュニティセンターにてそれぞれ開催し、延べ二一八名が障害のある方を取り巻く状況について話し合いました。

第二回及び第三回には、かねてより要望があったテーマ別でのグループ討議を実施したところ、「テーマがはっきりしている、」同テーマについて関心がある人と話すことができてよかつ

## はっと気がつくことを 求めて

一般社団法人

さいたま市手をつなぐ育成会

阿久津奉子

明星大学教授・吉川かおり氏による「きょうだい」についての話は何回か聞く機会がありました。が、ご自身の体験も交えての内容には、いつも終わってから頭と心の中に強く残ります。重い障害のある子が家族になった時から、追いかけて回して一日が終わる生活になりました。

兄として生まれてきた息子にとっても、小さい時から親と同じ目の位置で、弟に関わらなければならぬ日々の連続でした。一変してしまった家族生活や学校生活について、親としてきちんと対応していたかと考えると、障害のある子がいるからという言い訳で何もやってあげられなかったと、後悔も含めて考えてしまいます。



親には言えず溜め込んでしまった息子の話を、受け止める心の余裕もなく、真正面から向き合い親子で話し合った記憶もなく、負担をかせさせたまま多感な時期を過ごし乗り越えられたのは、息子の方が親よりも冷静な気持ちを持っていたからでしょうか。

特に大きな問題も起こさずに

大人になった息子に感謝です。

色々な経験をして今の立場にいるので、皆さんの話を聞いてアドバイスができることがあると思います。一人で悩まずにぜひ相談してください。

今子育てをしている皆さんには、積極的に吉川氏の講演を聞いた本を読まれることをお勧めします。

はっと気がつくことから新しいことが見えてくるはずですよ。

## ミクロの世界から ひとすじの光が…

さいたま市精神障害者

家族会連絡会

伊藤眞里子

10月21日、会場定員一杯の133名の方々が詰めかけて、今年も盛会に開催されました。

葉がテーマの「家族教室」の場合には、毎年多くの方が足を運ばれます。今回は、その葉の基を日夜臨床研究されている、糸川昌成先生をお招きして開催



しました。

先生のプロジェクトチームが解明された統合失調症の20%の方に該当して、予防にもつながるという治療薬、ビタミンB6(ピリドキサミン)について、また他にも、統合失調症研究の最新情報についてもお聴きすることが出来ました。

研究でのご苦労を終始笑顔で語られた講演会でしたが、実施したアンケートの感想文の中で多くの方が表現された言葉をお

借りしますと、「年代を越え、『難しいお話だった』にもかかわらず、先生の『研究に明るい未来と希望』を感じ、『志に敬意を表し』、『感謝』をこめて最後まで聴き入り、そして一日も早く、この新薬が認可されることを祈るような気持ちで『期待』している。」ことが分かりました。

また、60代以上の親世代が多い聴講者に、子供世代の若い糸川先生が自らプライバシーを打明けられました。遺伝子の世界を通じて、

「精神疾患は誰も身近にあり、隠しているものではなく、明らかにして予防に繋がしましょう。」と、示唆して下さったものであり、大きな感動を覚えました。

## 目の前まで来た「高齢」を乗り越える

さいたま市身体障害者福祉協会

田口秀之助

本会は創立六十周年になります



▲オストメイトのための医療講習会  
会場を埋め尽くした受講者のみなさん155名  
2月17日 浦和ふれあい館

す。このため会員の年齢も高くなります。ほとんど六五歳以上です。

また、夫婦二人暮らしが多く、単身者もかなりいます。

私も後期高齢者夫婦世帯です。元気だった女房も体調の不調を訴えることもあり、昨年はじめて救急車を呼びました。

幸いたいたこともなく、ほっとしましたが、このようなことは複数の会員からも聞いています。

私は出来れば住み慣れた自宅



で暮らし続けたいと願っています。そこで市民団で高齢者・障害者等のサポート事業を行っている「ケア・ハンズ」代表 中村清子さんに講演をお願いしました。

中村さんはお母さんの介護で苦労されたこと、経験から、三人の主婦の方と高齢者・子育てで困っている人の手助けをしようとして活動を始めたそう

です。

主に介護保険でカバーできない在宅支援で、さいたま市も応援している有償ボランティア団体です。

私も間もなく動けなくなることでしよう。そのときは、このような頼もしい「助け手」に「助けてえー」と、お願いしたいと思っています。

## 共に作ろう みんなの輪

Part5を終えて

ウィーズ 竹内 政治

平成二十五年二月二日はウィーズにとって6回目の「共に作ろうみんなの輪」学習会でした。うち五回を、さいたま市障害者協議会からの生活訓練事業の助成を受けています。今年度も講師にやどかり情報館の増田一世氏を招いての学び多き事業になりました。まず、当事者の体験発表からはじまりました。二名の当事者からの発言を受け

て、やはり精神障害者は怒りを抱えているのだなと思いました。さて、基調講演の増田一世氏の話の内容は障害者制度改革など障害者を取り巻く社会の在り方でした。作業所に通えているだけで障害者年金の等級が下がってしまったなどと、あまりにもひどい国の施策の批判を交え

ながら時間の許すまで学び合いました。とても長時間だったので疲れた人も居ましたが勉強になりました。最後に制度が変わるのが先か、人が変わるのが先か、あなたに質問します。どのようにして制度というより時代は変わってきたのでしょうか。

さいたま市  
障害者  
相談事業

発達障害を知る・  
理解する・共に生きる

講師  
発達協会常務理事  
湯汲 英史氏

発達障害という言葉聞くようになってかなりの年月がたっているはずなのに、未だによく分からない。回りにも発達障害と言われた子ども、いや、大人たちのも見られるようになっていきます。

育てにくさ、後には生きにくさを抱えて生きている人たちをどう理解すればいいのか。

相談を受けた時、「冷たい目」ではなく、いっしょに考えたり悩んだりするために、この企画



▼怒りを抱えながら前進！がウィーズのモットー



を立てました。

講師の湯汲英史氏は、三十五年前発達心理学を学んでいたころに、保育所にも受け止めてもらえない子どものことを知り、クリニックを作られました。

現在、知的障害、発達障害の子を抱える親たちの聖地となっている、王子クリニックです。

講演は次のように進みました。発達障害と言っても大きな違いがあり、東京大学に合格するような人もいます。軽度の発達

障害だと、学年が進みむとだんだん改善されて、かなりの人が普通になります。

昔に比べて今の子どもは成熟が早い。だから、スロースターターの子どもは障害があると思われることがあります。子どもの成長をじっくり見てください。特別支援教育にムリに追い込んでいるんじゃないかという意見もあります。

子どもへの声掛けが大事です。大丈夫よと安心させて、不安を感じさせないようにすること。

気質は変えられないが、性格は変えられます。のんびり屋さんには早く早くはいけません。

人は一人ひとり違います。

例えば「トイレに行つてから外へ行こうね」とか「半分こしようね」なども理解できない子もいます。

周囲の人の関わりによって、かなりの人が改善されると思つてください。 田口秀之助

# 平成24年度 社会参加推進センター開催事業報告

事業名	開催日 / 場所	参加者数	テーマ・内容等
生活訓練開催事業（身体）	9月22日(土) 浦和コミュニティセンター 第14集会室	50名	「障害があってもありのままに生きたいんです！」 筋ジストロフィー当事者による講演 講師：吉永 貴子氏 （社）埼玉県筋ジストロフィー協会支部長
生活訓練開催事業（身体）	10月20日(土) 大宮ふれあい福祉センター 3F 会議室	72名	東日本大震災「障がい者の被災と避難」 ～あと少しの支援があれば～ 講師：中村 雅彦氏 福島県点字図書館長
家族教室開催事業（精神）	10月21日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	133名	「ミクロの世界からひとすじの光が…」 統合失調症研究の最新情報 講師：糸川 昌成氏 東京都医学総合研究所
家族教室開催事業（知的）	10月28日(日) 浦和コミュニティセンター 第14集会室	56名	「今から知っておきたい就労の基礎知識 働く大人になるために」 講師：山本 信二氏 さいたま市保健福祉局福祉部長
家族教室開催事業（身体）	11月3日(木) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（小）	61名	「いつまでも自分らしく暮らしたい」 講師：中村 清子氏 NPO 法人ケア・ハンズ代表
家族教室開催事業（知的）	11月19日(月) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（大）	77名	親には、伝えられない気持ち… ～障害のないきょうだいの心を聞く～ 講師：吉川 かおり氏 明星大学教授
「障害者週間」 市民の集い	12月1日(土) 埼玉県障害者交流センター	504名	「障害者週間」を記念して広く障害のある人もない人も一緒に楽しむ催しです。 市セレモニー、障害者作品展、講演、ギター演奏、コーラス、和太鼓、民謡、授産品の販売、手話講座、幻覚・幻聴マシーン
生活訓練開催事業（身体）	12月9日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	90名	「病気やケガを防ぐための 運動機能の維持と改善について」 第1部 講師：加藤 忠男氏 理学療法士 第2部 はり・あんま・マッサージの体験と健康相談
生活訓練開催事業（知的）	25年1月14日(月) 埼玉県障害者交流センター ホール	40名	「Let's Enjoy! Part 2」 ～みんなで楽しもう和太鼓の音と響き～ 講師：太鼓集団「響」 浦和商業高校和太鼓同好会「絆」
家族教室開催事業（知的）	25年1月29日(火) 埼玉県障害者交流センター ホール	45名	「ノーマライゼーション輝くまちに！」 ～ノーマライゼーション条例・市民会議を生かした施策の実現を！ 講師：平野 方紹氏 立教大学准教授
生活訓練開催事業（精神）	25年2月2日(土) 浦和ふれあい館 大会議室	40名	「共に作ろうみんなの輪 Part 5」 制度改革の2年間、障害者の対策がどう変わったのか 講師：増田 一世
生活訓練開催事業（身体）	25年2月11日(月) 大宮ふれあい福祉センター 3F 会議室	35名	「聴覚障害者のための特別講演」 東日本大震災を体験して 講師：吉田 正勝氏 福島県聴覚障害者協会会長
生活訓練開催事業（身体）	25年2月17日(日) 浦和ふれあい館 会議室・ホール	155名	「オストメイトのための医療講習会」 展示会 講師：伊藤 祐二郎氏 さいたま市立病院医師 田代 美貴氏 さいたま市立病院皮膚排泄ケア看護師

## 「難病(膠原病)運動」 40年の軌道

NPO法人  
埼玉県障害者協議会代表理事  
森田かよ子

森田かよ子

難病対策が新しく福祉施策の一つとして社会的関心を集めたのは、当時の厚生省における衛生行政の歴史は、「伝染病制圧」に端を発していました。

社会防衛としての立場が第一主義的にと考えられたわけですが、戦後は欧米的発想法である「公衆衛生」という考え方と技術が、衛生行政の中心に座して定着し、疾病予防に、健康増進に、生活環境の改善に重要な役

割果たしてきました。

それらとともに、医療・保険・年金の各制度の整備により、社会的に不幸・不遇な方々への生活および医療保護などの政策的な配慮も進展してきました。

昭和四十五年ごろには「公害訴訟」が始まりました。

さらにある種の疾病への対策を充実することを求める声が大きき世論となり、「育成医療」老人医療」制度の整備に伴い、やと「難病対策」は昭和四十五年十月三十日に厚生省公衆衛生局より報告されました。

「難病問題の提起」不遇な環境に耐えてきた人々が決起し、障害者に並び今日の「障害者総

合支援法」へと駆け込むがごとく走り続けてきました。

「華岡青洲の妻」から学ぶ。今から二五〇年前に朝鮮朝顔から麻酔薬を開発した夫の研究のために自ら全身麻酔で乳がんの手術を受けたことから、私も難病研究対策に新薬に挑戦し、免疫抑制剤に挑むことになり、当時十歳だった娘にテープに「ママが死んでもきつと貴女の時代に役立つこと！恨まないで！」と別れの決意をのこしたものでした。

私の障害者運動の原点を綴りました。

## 事務局だより

「後見人がつくと選挙権が無くなるんですよ」という話を名児耶さんからお聞きしたのは、もう十年くらい前のこと。「知ってますよ。私は娘の選挙権を奪いたくないので保佐人になったんです」

なんと浅はかな返事だったのでしよう。

名児耶さんはあれからしばらくして、東京地裁に訴訟を起こし、今年三月十五日、障害が重いからと言って後見人がついているからと言って選挙権をなく奪するのは憲法違反であるという判決を受けました。大変だったと思います。

私がしたことは、胸にチクリとした痛みを抱えながら見守ることだけ。

これからは名児耶さんのおかげで、後見人がついている人も楽しく選挙ができるようになるでしょう。

テレビを見たり、ポスターを見たり、雨が降ってるから億劫だなあと思ったり：障害のない人と同じようにね。A

## リレートーク わたしはわたし

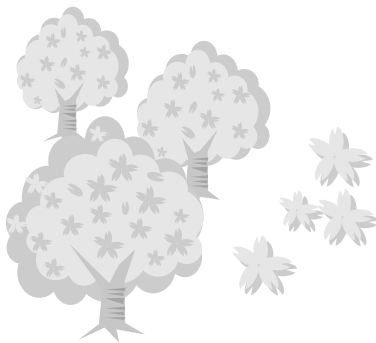


### ●森田かよ子さんのプロフィール●

昭和10年6月29日

娘の家族と同居4人

趣味はお節介おばさんと家族は言いますが本当は、お節介=リハビリなんです。



発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

一三三三

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.satama-planer.com/

e-mail satamacity-handynet@

bz03.plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子